

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 柴田町立槻木中学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ ・ Ⅴ 】
2 実施対象者 (学年・人数)	柴田町立槻木中学校 全校生徒279名 第1学年(男子42名・女子57名) 第2学年(男子52名・女子44名) 第3学年(男子43名・女子41名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (修学旅行) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・パラリンピック出場を目指している代表候補選手の講話や体験を通して、パラスポーツへの理解を深め、応援する心を育てる。 ・世界で活躍している現役トップアスリートの講話を聞き、様々な競技への興味、関心を高め、スポーツに親しむ心を育てる。
5 取組内容	(1) ベラルーシ新体操選手団 応援活動 期日：4月・7月 ベラルーシ新体操選手団が柴田町の仙台大学を中心にSAKURAキャンプ(合宿)を行った。その応援活動として、柴田町内の中学校3校協力のもと、点描画で応援旗を作成し、贈呈した。その際の中心校として制作・贈呈などの活動を生徒会が中心に取り組んだ。 また、全校生徒で「千羽鶴」を作り、SAKURAキャンプの際に直接、手渡し応援していることを伝えた。応援の言葉をロシア語に翻訳して伝えたり、事前にベラルーシのことを調べたりする活動なども行った。



(2) 修学旅行でオリンピックと交流

期日：令和元年9月11日（水）

講師：坪井保菜美氏

（2008年北京オリンピック新体操日本代表団体チーム）

対象：第3学年

2008年北京オリンピック新体操日本代表団体チームの選手として活躍した坪井保菜美氏から修学旅行先の東京で講演を拝聴した。日の出の頭から出発し、2020東京オリンピックの会場になる場所も併せて船上から見学した。

生徒からの質問では、オリンピックに向けて頑張ってきたことなどを身近な体験から話をしてもらい、自分のためだけではなく、応援してくれる人のためにも頑張ってきたという話を聞くことができた。

(3) パラリンピック講演会

期日：令和元年10月17日（木）

講師：コルジャ仙台プライドサッカークラブ

日本代表候補：佐々木智昭選手

ユース日本代表：齋藤陽翔選手

対象：第1学年

ブラインドサッカーチームのコルジャ仙台のみなさんをお招きして、ブラインドサッカーの競技についての説明や実際に競技の体験などを学習した。競技の特性などを聞き、音の大事さやガイドという直接プレーはしないが、とても重要なポジションがあることを学び、人に支えながら競技するスポーツであることを知る機会となった。日本代表候補の佐々木選手・ユース代表候補の齋藤選手からは生徒に向けて、パラリンピック出場を目指して苦労していることや夢などを話していただいた。同年代のユース日本代表選手の話からは、目の不自由な人が努力している様子に学ぶところも多かった。

2020年に迎える東京オリンピック・パラリンピックでは、ブラインドサッカーで活躍している日本代表の選手、そこを目指している選手を応援したいという感想が生徒からたくさん寄せられた。



(3) オリンピック講演会

期日：令和元年12月2日（月）

講師：重量挙げ53kg級日本代表：八木かなえ選手

対象：全校生徒

ロンドンオリンピック、リオデジャネイロオリンピックに出場し、東京オリンピックにも出場する重量挙げのトップアスリートである八木かなえ選手から重量挙げの競技の説明と体験会を全校生徒対象に行った。特にリオデジャネイロオリンピックでは6位に入賞する活躍で、今回の東京オリンピックでの活躍が期待される選手である。

競技に向かう姿勢や心構えについて、体験から学んだ生きたアスリートの言葉を聞くことができた。その言葉から生徒は東京オリンピックに臨む、アスリートのたくましさを感じることができたという感想が多く見られた。

重量挙げという競技について、興味・関心が今まではあまり高くなかったが、身近に感じられる競技に変わったという生徒も多かった。実際に重量挙げを体験し、応援の楽しみ方まで教えていただいた。また、今回は、世界選手権に出場している森下伊万里選手も補助員として本講習会に携わってもらった。多くのトップアスリートから、競技に取り組む前向きな姿勢を生徒たちは学ぶことができた。



【中央】
八木かなえ選手

【左】
森下伊万里選手
(世界選手権出場)

【右】
勅使瓦輝選手
(国体宮城代表選手)



(4) I'm POSSIBLE 活用授業

道徳の授業において、日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会が推進している資料を活用した。車いすバスケットで活躍している香西選手の題材を扱った。彼の経験してきたことやインタビューを通して、どのようにして困難を乗り越えたのか、また努力を続けられたのはどうしてだったのかをパラリンピックの価値である「勇気」「強い意志」を軸にして考えさせる教材であった。進路達成を目標に学校生活を送っている3年生を対象に授業を行い、困難に立ち向かう姿について考えを深めさせることができた。



6 主な成果

・この事業を始める前は、生徒からあまりオリンピック・パラリンピックに関わる言葉を聞くことができなかったが、実際に学ぶ機会を重ねるごとにスポーツへの関心やオリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まった。

【生徒の感想から】

<オリンピック競技 重量挙げ>

1年女子

・すごく重い重量も頭の上まで挙げていて、テレビで見るよりも重量挙げの凄さや魅力が分かりました。来年は東京でオリンピックがあるのでとても楽しみです。八木選手の活躍を期待しています。

1年女子

・今まで重量挙げのことをよく知りませんでした。今日のお話を聞いて、実際に試合を見ようと思いました。東京オリンピックで八木選手の姿が見られることを楽しみにしています。

2年女子

・「継続は力なり」のモットーを私も胸にプロのバレエダンサーになれるように頑張ろうと思いました。勇気をありがとうございました。オリンピック応援しています。

2年男子

・普段の生活では聞けないようなことばかり聞くことができうれしかったです。まだ、自分が何に向いているのか分からないので、挑戦していきたいと思います。

3年男子

・あんなに小柄で可愛い方が自分とほぼ同じ重さの物を持ち上げている姿がとてもカッコよかった。分かりやすい解説と実演で重量挙げという競技に興味を持つことができた。

3年女子

・今日は講演会でオリンピックに出場した選手の話を知るのは大変光栄でした。重量挙げ体験も楽しく貴重なものになりました。私も何事にもチャレンジしたいと思います。東京オリンピック、応援したいと思います。

	<p><パラリンピック競技 ブラインドサッカー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の講演会で「自分でできることを全力でやる」と話していました。このことを自分自身、かみしめながら私も生活をしていきます。 ・私は今までブラインドサッカーというのを知らなかったけれども障がい者がどのようにサッカーをしているかを知ることができました。パラリンピックに向けて頑張ってください。 ・ブラインドサッカーは、仲間の声、ボールの音を聞いてサッカーをするというのを見て、すごいなと思いました。パラリンピックでも頑張ってください。 ・体験がとてもおもしろかった。イメージや声が大切なことが分かりました。ブラインドサッカーを教えてください、ありがとうございました。 ・今回の体験を通して、たくさんのことを学びました。ボールが思った所に蹴れなかったので、ドリブルができるのは本当にすごかったです。夢に向かって頑張っている姿に感動しました。 <p><I'm Possible 資料活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不可能を可能にするために、自分の足りない所や努力しなければいけないことを見つけ、自分の前にはだかる壁を乗り越えていく力はすごいと感じました。 ・夢や目標を叶えるために努力をしてきたいと思った。辛いことや苦しいことに立ち向かう勇気がとても大切だと感じた。一つ一つクリアしていけば、明るい未来が待っていると思いました。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>今回の事業を行う際、柴田町として取り組んでいるベラルーシ新体操選手団との関わりを中心に、パラリンピック、オリンピックの両分野について学ぶ機会を設けることを考えた。</p> <p>特に海外のオリンピック出場選手との交流では、その国を知る一つの機会として捉え、応援する方法を検討してきた。また、2020東京オリンピック・パラリンピック出場に近い選手から話を聞けるように講演会・体験会を設定した。本校において、実際に競技をしたことがないような種目を選択し、広い視野でオリンピック・パラリンピックを応援できるような選手たちからの講演を依頼した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>今回、講師依頼をする際、本校の教職員の知人を招待した。著名なオリンピック選手が知り合いであったため、予算内での招待が可能であった。しかし、著名な方に依頼をする場合、高額な謝礼が発生してしまうことが多い。年度の途中に講師を紹介していただけるものもあったが、なかなか活用しづらかった。講演会・体験会をする場合の講師選びのサポートが必要だと感じた。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>次年度もベラルーシ新体操選手団への応援活動は継続する予定である。2020東京オリンピックのキャンプ活動の際には、柴田町民として、生徒一人一人が応援していければよいと考えている。</p>